

## 平成27年度 第2回 安曇野市総合教育会議 会議録

日 時 平成27年11月25日(水) 午前9時30分から午前11時30分

場 所 安曇野市役所本庁舎 会議室301

出席者

(市長)

宮 澤 宗 弘

(教育委員)

委 員 長 唐 木 博 夫 委員長職務代理者 宮 澤 豊 弘

委 員 須 澤 真 広 委 員 横 内 理 恵 子

教 育 長 橋 渡 勝 也

(事務局)

教 育 部 長 北 條 英 明 学校教育 課 長 古 幡 彰

生涯学習 課長 蓮 井 昭 夫 文 化 課 長 那須野 雅 好

図書館交流課長 高 嶋 俊 明 学校教育課長補佐 大 澤 明 彦

## ◎開 会

**教育部長** おはようございます。

それでは、定刻となりましたので、ただいまから平成27年度第2回総合教育会議を開会いたします。

私、教育部長の北條でございますが、本日の進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の総合教育会議は公開として行いますので、よろしくお願いいたします。

---

## ◎市長挨拶

**教育部長** では、まず初めに宮澤市長からご挨拶をお願いいたします。

**市長** どうも皆さん、おはようございます。

法律が改正になったというふうなことで、総合教育会議は首長が主催というふうなことになりました。教育関係、非常に幼児教育から始まって生涯学習、学校教育、大変幅広い分野で私もえらい教育に造詣に深いわけではございませんが、それぞれ教育委員の皆様方としっかり連携をとらせていただいて、安曇野教育のあり方についてこれからもいろいろな意見をお伺いをしながら市政に反映をさせてまいりたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたしますを申し上げます。

本日は、第2回の総合教育会議ということで委員の皆様方にはそれぞれお忙しい中をご出席いただき、ありがとうございます。また、横内委員さん、今回新たに選任をされたということではありますが、ご一緒をお願いをしたいと思います。

まず、総合教育会議、行政と教育委員会が十分な意思疎通を図りながら地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としております。市長という立場で仕事をする中で子どもたちの未来、そして安曇野市の教育政策をどのように進めていったらいいのかということは、重要な課題だというように捉えております。市から全国、そしてあるいは全世界にはばたくことができる教育をお願いして中学生の海外ホームステイ事業や友好都市等との交流事業を進めているところでございます。

特に就任以来、お願いをしてきたことはそれぞれの子どもたちの個性、能力を十二分に伸ばしていただきたい。ややもすれば、スタートからゴールまでおててつないで、まあ助け合いということは非常に大切だと思いますし、お互いに子ども同士のきずなを深めていく、こ

ういうことは非常に大切だと思いますけれども、やはりそれぞれの個性、能力を十二分に生かして、そして将来的にはこの安曇野から長野県を、あるいは世界をリードするような人材の育成に努めていただきたい。それで、どんなことでもいいのでいいこと、例えばスポーツでも音楽でも、あるいは科学においても、とにかく持てる能力を十分に伸ばしていただいて、そして何かの形で日本一を目指すような、そんな安曇野の教育をお願いをしてきたところがあります。それで、これからどうしてもグローバル社会になりますので英語圏との共通語になる英語、こういった語学力も身につけていただきたいなというふうに思っております。

過日、ご案内のとおり中学生議会を開催させていただきました。これも毎年やらせていただいておりますが、25人の生徒の皆さんからこれからのまちのあり方、そして安全、安心、あるいは産業、教育、福祉、まちづくり等をテーマにしていろいろな意見をいただいたところでございます。それで、これらの子どもたちの思い、夢というようなものも今後の市政運営に反映をさせていかなければいけないというように考えております。

今、市においては来年度、平成28年度の予算の編成作業を行っているところでございますが、市の財政運営上の財源であります普通交付税、これが平成28年度から合併特例債による加算措置の段階的な減額が始まります。平成27年度算定においては、普通交付税106億4,500万円、このうち19億5,300万円が加算分ということで、今後5年間でこの加算額が減額をされていきます。約20億円というものが交付税措置から減額をされていく、こんな財政状況になりますので大変厳しい財政状況が今後予測をされます。しかも、少子高齢化、人口減少時代に入っておりますして社会保障費が年々伸びております。恐らく近々100億円を超える、こんな状況になってまいります。400億円を超える今の予算規模でございますが、恐らくこれから先370、380億円が安曇野市としては適正な予算規模になっていくのではないかなど。決して財政豊かではございません。しっかり見直すべきところは見直していただいて、十分にコスト意識を持っていただきたいなというふうに思っております。

教育関連においても、これから今進めております図書館の整備であるとか、あるいはスポーツ振興計画が策定をされ将来構想等も打ち出されているわけですが、当面合併のときの約束事でございます旧豊科町に南部総合公園のところに総合体育館をつくと、こういう約束事が合併特例債を使って有利な起債で将来の財政負担を少なくするというので、合併協議の中で持ち越された課題がございます。そして、ご案内のとおり南部総合公園は圃場整備の中でお互いに地権者の皆さんが共同減歩ということで土地を出し合った、そんな経過もございます。従って、この合併協議会で持ち越された事項については非常に重要な課題だという

ことをございまして、前向きに捉えて用地確保、それから環境アセスメント等を含めて平成32年度中に建設ができなければ、非常に財政的には厳しくなるということで恐らく単独ではできない、こんな状況になります。従って、これをつくるとすれば今の南部の体育館、これが非常にもう古くなってきておりますし、隣の柔剣道場は私が中学のときにお世話になった組合立の豊穂中学時代に建てたものでもう60年も経過しております、老朽化が進んでおります。これらを統廃合するということを前提に、やはり早急にこの具体的な計画を立てていかなければいけない、こんな状況にございます。

それで、また学校の建物も避難所となります。この非構造部分の撤去とか耐震化、大きな予算を必要とする事業がたくさんございまして、まだもう1校だけだったかね、耐震の大規模改修。

**教育部長** 大規模改修は1校です。

**市長** 大規模改修しなければいけない学校がもう1校ございます。国の予算も厳しいということで、思うように予算がついてこないということで少し先延ばしになっている事業もございます。いずれにいたしましても、一層効率的な予算運営というものが求められております。

それで、いろいろな計画を立てていただいております。博物館の構想であるとか、あるいは市民の皆さんの中にはスポーツ振興、健康長寿のまちづくりの中でスポーツ振興も大きな柱でありまして、陸上競技場であるとか野球場であるとかサッカー場の充実であるとかいろいろな要望が出ておりますが、いずれにしてもこれからの財政状況をしっかり見極めてやっていかなければ全ての要望に応えるというような状況にはございせん。従って、近隣の施設の利用というふうなことも視野に入れながらより効率的な運営、そして活用が求められているというふうに思っております。

いずれにいたしましても、本日は会議事項に従いまして、安曇野市の教育大綱をメインテーマとして教育の政策、取り組みについて意見交換を行っていただくことになっておりますので是非、大綱策定にあたりましては定例教育委員会等で慎重にご協議をされたものとお聞きをいたしております。教育指針を市民憲章と同じく安曇野市の教育の根幹として捉えていただいて、教育委員の皆様方と一緒に安曇野市の教育体制、そして本当に子ども本位の教育になるように一緒に取り組んでいただければありがたいというふうに思っております。是非、いろいろな意見交換をさせていただきながらこれからの安曇野市の教育全般について、どういった方向を目指すべきかということで論議をいただければいいかと思っております。

私も機会があれば、また校長先生方ともいろいろと現場の声も聞きながらより教育環境の

整備はもとよりであります。全ての課題を市が解決をするというわけにはまいりません。多くの市民の皆様のご協力をいただきながら、より最少の経費で最大の効果をどのように発揮するかということが非常に大切だというふうに思っておりますので、よろしく願います。

それから、今までも実施をしてきておりますが、本年は戦後70年という大きな節目を迎えました。今まで戦争もなく無事平和な社会を迎えることができましたが、過日平和のつどい、そしてそこにアオギリ二世を植えさせていただきました。是非、それぞれの命の大切さ、そして仲間を大切にする、思いやりの心を子どもたちに養っていただいて平和教育にしっかり取り組んでいただきたい。これは人権教育にも通ずることでもありますので人権尊重のまちづくり、平和のまちづくりに向けて教育現場でしっかり取り組んでいただきたいと思っております。それで、来年の参議院選から、18歳から選挙権が与えられるという状況の中でございます。この市の行政についても生徒、あるいは子どもたちに関心を持っていただいてこれからの安曇野のあり方、若い考え方というようなものを積極的に聞いていただいて、生かしていただければ大変ありがたいと思っております。

少し長くなって申しわけございませんが、また意のあることを汲んでいただいてお互いに安曇野教育の向上を目指していただければと思っております。長くなったことをお詫びを申し上げながら、開会に先立ってのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

---

#### ◎教育委員長挨拶

**教育部長** それでは、続きまして、教育委員会を代表しまして唐木教育委員長からご挨拶をお願いいたします。

**委員長** おはようございます。

まず、本日総合教育会議を市長さんに開催していただき、本当にありがとうございました。総合教育会議の目的については、今のご挨拶の中にあつたとおりでありますけれども、今までいろいろな機会とか行政の仕組みを通しながら、市長部局と教育委員会の理解と意思疎通を図ってきたわけなんですけれども、市長さんと教育委員との懇談といいますか、話し合いという機会は必ずしも多くなかったわけでありまして。今日、総合教育会議という正式な場において、教育に関することを中心に話し合いができること、本当にありがたいなというふうに思います。今後、一層の連携を深め11年目を迎える安曇野市の教育、文化、スポーツ等の

振興に一層努めていきたいなというふうに思います。

教育大綱の原案を作成するために教育委員会議の中で3回ほど、かなり時間をかけて審議をさせていただいたわけなんですけれども、その作成の過程の中で私自身、市民憲章とか、それからいろいろな各種計画をもう一度基本になるところを見直させていただきました。その中にやっぱり生涯学習とか生涯スポーツ、それから文化や歴史、教育などの基本になることはかなり色濃くうたわれているんじゃないかなというふうに思いました。それが関連づけられているかどうかということについては、またこれからこういう総合教育会議を通して議論していけたらいいなという思いを強く持ちました。

まちづくりは人づくりであるというところを基本にして、教育委員会としても努力していきたい、そして今日の会議が安曇野市のそういう教育、文化、スポーツ、学術、芸術、みんなそういうものの教育分野の振興、向上にあたっていけばいいなというふうに思っております。今日はそんなことで、いろいろと意見交換させていただきたいというふうに思いますが、よろしく願いいたします。

以上であります。

---

#### ◎教育大綱の策定について

**教育部長** それでは、4番の議事に入らせていただきます。

議事の進行につきましては、市長はこの会議の主催者でございますので議長をお願いしたいと思っております。

**市長** それでは、しばらくの間、議事進行をさせていただきます。ご協力をお願い申し上げます。

早速議事に入らせていただきます。

教育大綱について、事務局から説明をお願いいたします。

**教育部長** 「教育大綱の策定について」資料により説明。

**市長** 事務局からの説明が終わりました。

この教育大綱について、委員の皆様方から率直なご意見等をお聞かせいただきたいと思います。

どうぞ、唐木委員。

**委員長** お願いいたします。

教育大綱の案をつくらせていただく中で考えたこと、また感じたことを少しお話をさせていただきたいなというふうに思うわけなんです、10年間の安曇野市で行ってきた教育に係る各種の施策等々についてですが、その成果を踏まえて、そしてさらに教育、文化、スポーツが一層向上する、そして充実が図られていくという立場でいろいろ考えてみました。そのためにそれぞれの、例えば学校教育のところであれば、目標があって行動計画があるというふうに大綱してはかなり細かな記載がされている部分があるわけなんですけれども、この中にそれぞれの項目、それぞれ成果とそれから今後の課題も含めて表現されているというふうに考えております。ですので、これを今まで行ってきたこと、そして今後の課題、そして方向というような形で進めていくことがいいのかなというふうに思うわけなんです。

例えば成果ということでいえば、1番の学校教育でありますので学校教育に係ることでお話をしていけば、先日の1/2成人式での4年生の姿とか、それから先日平和のつどいがあったわけなんですけれども、参加した生徒の感想、意見発表がありました。選ばれた代表の子どもたちとはいえ書かれている中身、それから参加している態度等々やっぱり育っているなという印象を私自身持ちました。これもやっぱり今までのいろいろな教育へ力を注いでいただいた一つの成果かなというふうに考えているわけなんです。

そして、今年秋には安曇野市内で全県を対象にした研究会とか、それから中信地区を対象にした研究会等があったわけなんです、その中での学校における子どもたちの学びの様子とか、それから先生方の授業の様子を見ているとやっぱりちょっと手応えを感じるものも幾つかありました。もちろん教育についていえば全体で話を論じるものと、それから個々、一人一人の生徒について論じていかなくちゃいけない部分も両方ともあるわけなんですけれども、大きな一つの流れとしては落ちつきたい雰囲気の中でいい教育という方向に向かっているのではないかなというふうに感じております。

そのように、いろいろな各分野のところ、10年間のやってきたこと、それを踏まえてそこにさらに積み重ねていく、当然課題がありますけれども、それに積み重ねていきたいという、そういう方向でいきたいなというふうに思いますので、また市長さんのご意見等も教えていただければありがたいかなというふうに思います。

以上であります。

**市長** なかなか私自身もPTAの会長の経験はありますが、教育の中身というところまではしっかり理解をしていない面が多々あります。ただ、この大綱はできてもこれをどう実現するかということが大きな課題だと思いますし、それから指導者の先生ももちろん資格を持った

先生たちですから甲乙つけるということは失礼かもしれませんが、やはり指導者によって生徒の能力、あるいは考え方というのはすごく左右されると思うんです。私どもの小学校、中学校時代を振り返ってえらい勉強はしなくて嫌いだったんですけども、私自身も勉強できないほうでしたが、やはり教師に受ける影響というのはずっと引きずっていくような気がするのでやはり質の高い教師という言い方は悪いのか、それぞれの分野でしっかりした指導のできるというか、指導者によって子どもたちの性格なり、あるいは能力なり伸ばしていただけるというものがあると思うのでいい指導者を得るような、そんな人事の面で努力をさせていただきたいなというふうに思います。ただ、今年から県のほうでも教員人事については、今までと違って校長会だけに委ねるといふことのないようなという話ですが、実際は現場が一番わかるのは現場にいる校長先生たちだと思うので、これを全く無視した人事というのは恐らく一気にはできないんじゃないかなという思いはしていますが、とにかくいい指導者をどう求めるか、得ていくかということに力を入れていただければありがたいと思います。

それと今度、私どもがこの総合教育会議を招集しなきゃいけない立場でこういう大綱はそれでいいんですけども、全て財政との兼ね合いというのも念頭に置かざるを得ない。それで、教育は百年の計ということで、一気にその効果があらわれるものじゃないということは承知をしておりますけれども、やはりこういったものを実現していくにはそれなりの財政的な裏づけと、それから人材と両方が相まっていかなきゃいけないということになるので、財政面で非常に私はこれから厳しいものがあるのかなというように思っているんで、今置かれている状況というのをしっかり理解をさせていただきながら、大綱を決めたからそれがすぐできるということじゃなくて、これは一つの求めるべき方向であって即実現できるものと中期的、長期的な視野に立って検討していかなきゃいけないものと分けて考えていただかなければ大綱ができたから大綱に沿ってすべてやるというのは、ちょっと今まで行政を担当してみても厳しいものがあるというふうには感じています。

この大綱に関して、いろいろご意見等がございましたら是非、忌憚のない意見をお願いしたいと思います。

**教育長** それでは、お願いします。

**市長** はい、どうぞ。

**教育長** 今、市長さんおっしゃいましたように、子どもを教える教師の影響力が非常に大きいということは、私も感じておるところでございます。それで、市長さんおっしゃるように、より質の高い指導者に来てもらうということもあるわけですけども、今いる先生方が、自



分たちの学校の中の課題をしっかりとつかんで、そのためにどういうことをすれば、学校の力が高まっていくかということ、主体的に考えていくような学校運営を期待したいし、またそれを応援するような教育委員会でありたいと思っています。

具体的には、学校が一つのチームとなって、その学校の子どもたちの力を高めるためにはやっぱり教師自身の力を高めなきゃいけないので、教師は生涯学び続ける、そういうことが大事だと思っています。ですので、職員の研修です。それをバックアップできるようなことを少し考えていきたいと思っています。例えば、こういう指導者に先生たちが学びたいとか、あるいは具体的に自分の授業を見てもらい授業をよりよくしていきたいとか、あるいは先進的なこういう話を聞きたいとかいうようなことに対して、使えるような予算づけをできたらなど、そんなことも少し考えているところでございます。

もう一つ、別な観点で、教育大綱は安曇野市の教育の現在から未来に向けての根幹の意味を成すわけですけれども、一方教育は受ける側の立場の声も非常に大事だと思っています。先の中学生議会である中学生議員が、もっと学力をつけたいけれど、その方法がわからなかったり、学習内容でつまずいてしまったりして成績が振るわない生徒がいる。放課後などの時間に公民館や図書館といった公共の施設で元教師の方などに来ていただき、指導を行ってもらい学力の向上につなげていったらどうか、こんな意見を言っているわけでありまして。学力向上というのは、今の学校の中での一つの大きな課題であるわけですけれども、学んでいる生徒の側からもっと学びたいけれども、まだその方法がわからなかったり、つまずいているんだと。何とかそこに手を差し伸べてもらうようなことはできないかという、こういう声だと思っわけですね。

かねがね、学校は学校だけで子どもを育てるのではなくてあらゆる人が学校にかかわって子どもたちを育てることが大事だというふうに言われておりますし、安曇野市もそういうことで地域の方々にさまざまかかわっていただいているんですけれども、さらに今の中学生の声に答えていくとすれば学校に積極的に足を運んでもらってそういった子どもたちにかかわってもらい、そして子どもたちも教えてもらってよかった、そして地域の人も子どもに元気もらったというようなふうにしてその地域とともにある学校というようなのも目指していく一つの大事な方向ではないかなと、そんなふうに思っています。

以上です。

**市長** 他に意見ございますか。

はい、横内委員。

**横内委員** このたび、10周年を記念して市歌が制定されました。僕も歌えるようになったと、うちの子どもも言うておりました。私も市歌を歌うことで旧5町村の全地域の一体感が持てるものになって気持ちも丸くなるかなというふうに思います。その市歌の学校での活用について、市長のお考えを教えていただけたらなと思って質問させていただきます。

**市長** 市歌、合併のときに市歌をつくるということは、協議会の中で検討されてつくるという方向にはなっていたようですが、10年間手をつけなかったというのが実態であります。この市制施行10周年にあわせて、全国から公募させていただいて3曲を委員会で選んでいただいた中から市民の皆さんの投票によって選ばせていただいた市歌、歌詞に安曇野市出身の飯沼先生から作曲をしてもらったということであります。できる限り大勢の皆さんに歌っていただいて後世に引き継いでいただき、安曇野市の一体感をまずつくり上げていきたいなと、そんな思いでつくらせていただきました。

私は、ちょっと出だしより中間あたりが難しいなという思いはしておりますが、子どもたちや、あるいは音楽を愛唱される皆さんには非常にすばらしい曲だというふうに評価をいただいておりますし、また安曇野をイメージできるような内容だというふうに思っております。従って、是非学校現場においてはもちろんでありますが、それ以外にもCD等がございますので学校では音楽の時間等にこの市歌の斉唱等をしていただいて、広めていただきたいなというふうに思っております。そのみならず、公共の施設、あるいはそれぞれの市の観光施設的なものがございます。そんなところで、市歌を流していただいて安曇野市の一体感、さらに全国に安曇野市の発信をしていただければなと、そんな思いで是非、教育委員会としても積極的にかかわっていただきたいなと思っております。

それから、橋渡教育長がおっしゃられた先生たちの一体感なり指導者としてのあり方、そして地域に愛着を持ってもらうということで今、先生たちの異動の時期というか、異動をする前の赴任の期間というのがどのくらいなのか。できればある程度、やはり地域に愛着を持ってもらって地域の文化、あるいは人柄に触れていただくには一定の期間がないと3年、4年で次のところへ転校、あるいは場合によったら3年いるかないかわからないというようなことでなくしてある程度、お私たちの学校という意味も含めて校風なりなんなりを打ち立ててもらって地域との交わりを持っていただくというには、短期の異動というのはあまり好ましくないような感じを素人なりに持つんですが、その辺の人事異動についてはどんなふうになっているんですかね。

**教育長** 一般教職員の人事については、何年でなければいけないということは決まっていない

わけですけれども、多くは3年なり4年くらいが異動の目安というふうになっているのが現状です。私の経験だと、中学1年から3年まで持ち上げて、その節目でそれを1期とすれば、そこで異動かもう1期やるかみたいなことで多くの場合、異動するものですからそのくらいの期間だと思います。また、安曇野市出身の教員数が非常に県内でも多いものですから、ここへ戻ってきて勤めたいという人も多いので、1人があまり長くいると人事交流が計れないという面もありますので、そんな点で1人がそんなに長くというわけにもいかないということがございます。

ただ、今全県的に校長人事においては、できるだけ長期に在職してその地域の学校運営に浸り込んでやるようにということで、校長の在職の長期化というのは県も進めているところですので安曇野市でも是非、少しでも長くしっかりと腰を落ちつけて市長さん言われるように地域に愛着を持って地域としっかりと交われるような、そういう人事ができますようにまた県と協力して進めていきたいと思っています。

以上です。

**市長** それと、基礎的な面で最初にわからなければ後までなかなかついていけない、私も勉強が嫌いだったんだけど、数学であるとか英語であるとか基礎的なものができていないと次の段階に進めないしおもしろくない、ますます遠ざかってしまうということがあるんですが、安曇野市では教員の先生方のOBの皆さん方、立志塾というのをたしか前の教育長、丸山さんのときにつくっていただいて基礎学習というか、そういうものをしっかり身につけていただくというようなことで補習的なことをOBの先生方がボランティアで今もやっていたのか、その辺の活用というか、どんなふうに今実態としてはなっているんですか。

**教育長** 小学校では放課後学習室というのを週1回、各学校でやっておりましてそこへは教員のOBを中心にして入ってやっていただいております。当初、スタートしたころは確かに学力的にももっと教えてもらいたいという子どもたち、あるいは学校に少し足が向かないような子どもたちが積極的に学べるような環境をつくりたいということでやっておりましてけれども、今は自分から希望して学びたいということで来ている子どもたちもおりまして、私も学校訪問の折に見せていただきましたが、非常に意欲的に取り組んでいるのが実態です。

立志塾というのは、中学校の生徒たちに志を高く持った地域なりの先輩の皆さんのお話を聞くような機会を設けるということで立ち上げた事業ですけれども、これもスクールサポート事業の中に位置づけて、学校の要望に応じて活用できるようなふうにはしているところです。

**市長** 他にございますか。

はい、どうぞ。

**須澤委員** 冒頭で市長のほうからお話がありました、日本一、世界一の生徒さんが育ってほしいというお話、非常に大事なポイントでこれは私、教育委員に最初にならせていただいたときからずっとお聞きして首尾一貫したお話だなというふうにお聞きいたしました。

それで、その方策もさまざまあろうと思うんですが、そろそろいよいよ来年から合併11年ということになりますから具体策に入る時期になったと思っている次第です。例えば、以前ちらっとお聞きしたような気もいたしますが、小学校なり中学校なり各学校が校長先生が先生方をまとめられて我が校はこの学問なり、この競技で県大会へ出るんだぞと、そして全国大会へ行くんだぞといったような立案ですね。そのためには、1年ででき上がるわけありません。ですので、やはり2年、3年と少なくともかかる。だから、3年のうちにはここまで行きたいといったような現状から将来に向けての夢です。各校長先生方の夢といえれば実現できるか怪しいなということになります。自分自身がこの学校ならできるぞと、そういうものをつくる時期に来ているのではないかと。

そのために、やはり市長さんおっしゃるように私も経験から人材です、教員です。ですから、この教員が欲しい、まあ校長先生方は各地を回っておいででしょうし、幾つかの学校においででしょうから、この人材を確保して私の夢を実現したいといったようなことをもっと具体的に出して行ってそれを教育長先生のほうへ出していきたい、そういう方法が一つあるかと思うんです。そのために、ある程度こんなお金が必要だといった、やはり具体案に対して予算化の要求、こういうものも出てくると思うんですね。ただ、私は1年目から予算要求というのは出し得ないと思うんです。1年やってその結果を見て予算要求は出せるんじゃないかと思います。やはり指導者がいなければ、ものは勝てない。

例えば、塩尻市の私立の高校で女子のバレーで全国、あつという間に優勝というのがございます。これは、北信の中学で実績を上げた先生を、これはもうピックアップですね。その結果、あの先生がいるならば是非あの学校へという感じで全県から集まったんですね。ですから、そのようにやはり1人の先生なりサポートするもう一人なり、そういう者がいれば結果は徐々に出る、生徒も親御さんも信用する、こういうふうになってくるんじゃないかと。これがまず一つ、学校側に私は望みたいところなんですね。理論的なことは、もうこれまで話ありましたのでそのくらいの気構えを是非、持っていて数年おいでいただきたいなというのがまず一つ申し上げたいことでございます。

**市長** それと、今の子どもたちというのは私どもの時代と違って何かゆとりがないというか、

塾通い、習い事、学校で学んだこと以外に何か親たちの希望があるのか、それだけ身につけなくてはついていけないのか。変な話ですけれども、全てを1人の人間が身につけるなんていうのは無理だと思う。なので、何か秀でたものが一つあってそれで生活能力をどう身につけるかということができればあれもこれも何でも詰め込むことがいいことなのかどうなのか、非常に私はその辺の教育のあり方というのは疑問を持たざるを得ない。全て100点、全て80点とらなくてもいいと思うんだけどね。それが非常に難しいところだけでも、すぐ点数、点数で評価される時代だから。

ただ、世の中へ出て果たしてそれが100点満点の人間が通用するかというと、必ずしもそうじゃないことがままにしてあるんじゃないかなと思うんだけどね。今後もう少し個性を出してもらおうような、そんな教育ができればいいなと思う。公務員にしても、みんな何か発想がある面ではちょっと乏しくて前例踏襲、先例踏襲、自ら前例、先例、どういうふうにつくっていくのか、それを破っていく、そういう馬力がちょっと今感じられないような気がするんだよね。野性味がみんな失われちゃって、何か型にはまったような人間になってしまうのではないかなという思いがして。

**委員長** お願いいたします。

本当にそんな感じを受けるんですけども、今日は教育大綱のことが議題なんですけれども、例えば5ページ、6ページで学校教育、家庭教育、幼児教育を書かれているんですけども、先ほどおっしゃられたようにこれをどうやって具体化していくかというところが、これから私たちに課された課題になるんですよ。例えば、幼児教育のところでも幼児の育成のところでも主体性・創造性を持った子ども、体・心・知恵のバランスがとれている子ども、群れて元気に遊ぶ子ども、思いやりのある子ども、安曇野の文化・自然の中に自ら浸りこんでいける子ども、文書とすればこのとおりなんだけれども、これをどういうふうに具体化していくかというところをやっぱり先ほどお話があったようにできること、できないこと、すぐ手をつけること、何年もかけてやっていくことというあたりも本当に精査していかないと、結局大綱というものができてもそれが文章だけでそこで終わってしまうということにならないように、そこは十分に気をつけて行ってそれで今の子どもたちの育ちについても、本当に子どもたちもきっと多忙感というのはあるんですかね。先日、私地区の文化祭をちょっとお手伝いさせてもらったんですけども、今年は連休の中日だったせいか、子どもが来るのがすごく少なかったんですね。もっとやっぱり子どももなかなかこういうのに来られないのかな、なんていうことを思ったりしながら反省会をもったわけなんですけれども、やっぱり子

育てというようなものが、一番今の時期に子育てで大事にしないといけないものは何なのかというのをやっぱり教育委員会なりきの発信というようなことも当然、子どもを育てる第一義的な責任は家庭にあるわけなんですけれども、それに対してこういう育ちはどうだというような、そういう発信はうんと大事ななんていう気がするんですけれども。

**市長** 確かにこの大綱、みんな総花的にね、作文だけはうまく書くんだよね。それで、役人さんはなかなか文書の作り方がうまいし、総体的な意見を聞いてまとめることもうまいけれども、書いた作文をどう実行に移してそれを実態として結果を出すかということだよ。やはり子どもも政治に携わっていると、理想の旗を掲げながら現実の問題処理と、それから結果で評価されるからね、これは結果を出さないと絵に描いた餅で終わっちゃうからね。だから、人と財政、どのようにバランスをとっていくかということは非常に大事なことだと思います。

須澤先生が言われたように私も、例えば今御嶽海が大活躍している。それで木曾のほうは相撲が盛んになる。ここは松本山雅が頑張っていて、J1昇格した。今度J2へ落ちてしまったけれども、サッカー熱でファンが多くてサッカーファンが増えるとか、安曇野のある学校では指導者が変わったら音楽は非常にレベルが高くなったとか、その指導者によって非常に影響を受けるんじゃないかなという思いはしています。だから、ある面で社会教育の中へ、例えば体育なら体育、何を目標にするかはともかくとしても、去年は豊科北中学校が全国大会でもう少しでリレーは優勝というところまでいったんだけど、これも指導者の先生だというような話も聞いているので、例えば社会教育、社会体育の中に市として何か特化したような指導者を招集して、それで言われたようにこの指導者がいるから安曇野へ来て学びたいなというような、何か特色を打ち出す必要があるんじゃないかなという思いはしているんだけどね。

それと、ここには公立高校が4校あるんだけど、地元校がなかなかちょっとある面では定員割れになってしまって厳しいなという高校もあります。あとは、職業高校をどういうふうに伸ばしていくか。農業高校、商業高校があるんだけど、こういったところで活躍する人材ということになれば、やはり安曇野市の義務教育の関係とこの高校教育とのつながりというものも大事にしていく必要があるような思いとしては気がしているんだけど。だから、地域校をみんなでどういうふうに盛り上げるかということも大切なことだと思うんですね。

教育界とか医学界というのは、非常に先進的で開かれているような感じを持つけれども、

客観的な私の感じとしてはある面では極めて封建的な組織かなという思いもしないではありません。やはり学閥があったり、あるいは先輩後輩、この先輩後輩というのは非常に大切なこと、人間関係だと思いますからいいことだと思うんだけど、その辺のところをお互いにどうしていったらいいかということ率直にぶつけ合いながら方向づけをしっかりとしていかなければ、これもある面では絵に描いた餅に終わってしまうようなところがたくさんあるんじゃないかな。

もちろん、理想が高いことは大事なことだと思います。理想を持ちながらどういうふうにしてそれを実現して結果として成果を上げていかなきゃ意味がないので、それで安曇野市は義務教育の中で本来なら県なり国が見なければいけないところ、加配の先生60人以上お願いをして、それぞれの条件の中で取り組んでいただいているんだけど、この成果がどういうふうにあらわれてきたかという総括があまりなされていないので、これはやはり60人なら60人加配したけれども、先生たちの仕事が楽になったよというだけではまずいと思うんですね。だから、具体的な成果というものが目に見える形で市民の皆さんに説明責任が果たせるような体制づくりというのが大事じゃないかなという感じは持っています。

**須澤委員** やはり、目に見える形の成果というのは非常に大事だと思います。例えば、白馬高校はあの地域に白馬高校がなくなれば地域が衰退するという、そういう危機感のもとに何と本来の県教委の方針ではもう今年分校にならなくてはいけなかったんですね。それが、いやいや、あれよあれよという間に全国展開の学校になってしまいました。あれもやはり地域と学校一緒になって、こんな学校にするんだという訴えがその成果で出たんだと思うんですね。それで、やはりこの地域、四つの高校がございしますが、実はこの会が始まる直前に私が校長をやった穂高商業高等学校の校長さんにちょっと電話して、いや、各中学へはどんなプロモーションに出ているんだねと聞いたら、ええ、教頭さんが各中学へ出かけておりますというもので、いや、それは非常に大事なことだと思う、是非やってくださいということをお願いしたんですけども、まあそれはそれで結構です。

一方で、中学の側における各高校へのプロモーションはどうかかなと。我が校にはこれだけいるのでというような感じで機会がありますので、どのようにそれを生かされているのか、これもちょっとお聞きしたいような気さえます。あまり具体的な動きというのは規制されていると思いますので、機会はあるかと思うんです。そういうことも非常に大事かと思えます。

それから、今市長さんおっしゃるようなこと、文科省もそもそも言っていることなんです

ね。私、前から思っているんですが、今までどおりにやれば無難なんです、ちょっとそれを破るということにチャレンジしてほしいと。私のことを言ってまことに申しわけないですが、もう二つチャレンジしましたら即県教委から呼び出しがかりました。ちょっと来い、こういう感じで、一体その中身はどうなんだとこう言われるんですね。一つは松本大学との連携、もう一つは小学科名の変更です。こんな数学をやるような科目へ誰が来るんだというのが私の理念で、商業高校へ行きたいという気持ちになるような名前に変えなきゃだめじゃないかというので職員にちょっと名前を夏休みの宿題、1人三つくらいずつ考えてこいと。それで、校内で決めましてこれでいいと、私が決定しました。高大連携の大学へ打診しましたら、おおいにいいなど。だから、お互いに研究して一つの案もできました。それを聞きつけて県に呼ばれてしまいました。いや、このことでお金がかかったり、人をよこせとか言われても、とのことでしたが、いやいや、お金も人も要りません、今の人材でやります。それならいいと、こうなったんですね。だから、やはり他人頼りはだめですね。最初に私申し上げましたが、各地域の学校の特色、今小学校でも生徒が少なくて困っているという小学校ありますよね、安曇野市もどんどん減っている。一方では、多いというところもある。それぞれの地域に即した新たな自分の案はあるのかと、これを聞きたいと思っていますよ。そういうのをサポートするということがとても大事じゃないかなというのが、私の思っているところです。

**市長** 他にありますか。

それで、今県教委が進めている中で中高一貫ということで、小中もそうだけれども、中高もあるわけだね。それで、中高は各中信、南信、東信、北信、4カ所へ1校ずつということやって中信がまだないわけだね、たしかそうだね。その辺のところをどういうふうに捉えるのか、安曇野市の教育委員会としてね。それで、小中一貫というのも出てきてはいるよね。それで、特に公立じゃなくて私立のほうがそういった面が大分進んでいるというか、松本秀峰中等教育学校なんかそうだし松商学園高等学校なんかもそうだけれども、その辺が学校教育の中で一体どの方向がいいのか、子どもたちにとって、あるいは教育会にとってどういった連携を深めていくことがいいのか。小中は、大体市内は連携はとれていると思うけれどもね。

**委員長** 今のお話、これからの教育への夢という形になっていると思うんですけども、安曇野市のよさというのはやっぱり自然とか文化、歴史とか、それから産業も農業、それから工業の特色というのがあるわけなんです、やっぱり4本目は私、教育というような四つの柱



でもいいのかなと思っているんです。それで、その中でやっぱりゼロ歳から18歳までの育ちを保障していく、よりよい育ちを保障していくような、そんな教育ができればいいなと思うんです。その中で例えば小中一貫というようなことは多くの場合、小中一貫は少子化対策で小さい学校になっていってしまうので対応するという、そういう部分があるわけなんですけれども、安曇野市の場合そういうことの必要な地区もあるし、それからもう一つはやっぱりかなり学校規模の大きなところもあってスケールメリットを生かしたような、そういう小中一貫というのも考えていってもいいんじゃないかなということも私、夢として持っているんです。

ですから一つ、ここに今回の大綱の中にも小学校、中学校の連携を強化した学校づくりの推進というようなことで具体的に進めていかれる糸口をここにまた示してありますので、それをやっぱり何らかの形で具体化して特色ある、安曇野へ行けばこんな学校があるんだというような、そういうことも施策としてやっていくと。やっぱり人口が減少していく都市もあって、安曇野も何らかの手を打っていかなくちゃいけないということのお話をお聞きしますが、やっぱり教育というのもその中で一つの施策にはなっていくんじゃないかな。ですから、例えば中学校と小学校が隣接しているところは、それを一つの学校としてみなしてカリキュラムを組んでいくとか、それから職員も授業が行き来できるとかそういうのも今の制度内でも十分できますので、そういうところを具体化していくモデル校みたいなのをつくっていくというあたりも具体的に手を打ってもいいんじゃないかなという気がします。

**市長** 学校運営は大分、校長先生に権限が集中しているような感じを持つんだけどね。いろいろな催し物にできる限り子どもたちも参加してもらって、そして安曇野市に愛着を持ってもらいたいという思いはあるんだけどね、子どもたちも忙しい、先生も忙しい、あるいは校長先生の運営というか、方針によってそれぞれの学校の対応というようなことになってしまっているんだけどね、例えば小中一貫にしても、まずは教員の現場にいる先生方が校長先生の理解をどう深めるかということも非常に大切になってくると思うんだけどね、学校運営の権限というのは、ほとんど校長に委ねられているという見方でいいわけだね。まあ教育委員会にお願いして、いろいろとまちの行事なんかにも参加してもらって協力していただいているんだけどね。校長先生の考え方というのは色濃くやっぱり出てくるんじゃないかなと感じるんだけどね。

**委員長** そういう部分もありますね。

**市長** だから、この一つの方針を出したにしてもやはり現場で協力体制、理解度が進まなけれ

ば、なかなか実現できないという課題もたくさん当然、出てくるからその辺をどういうふう  
に話し合いの場を持ってお互いに特色ある学校づくりをしていくかということに結びつけて  
いかなければいけないというふうに考えていますがね。

**委員長** 短時間で続けての発言で申しわけございません。

10ページのところにいろいろな振興計画があるんですけども、社会教育、それからスポ  
ーツ、給食、これが欠けているのが学校教育がないんです。その学校教育にかかわるよう  
なこういう基本計画というのを今、安曇野市としてこういう学校教育を目指していくんだとい  
うようなものに手をつけていくというところが必要じゃないかなと。

以上です。

**教育長** 校長は学校の最高の責任者で全てを担っているわけで、そういう意味では権限がある  
ことも事実ですけども、また職員の意見を十分に聞きながら各校の特色を生かすようなこ  
とにもまた先頭に立ってやっているのが実情です。それで、特に今年は市制10周年記念の事  
業がたくさんございまして、例年より増して児童生徒の参加をお願いしたり、また学校の先  
生方にも協力していただく必要があったものですから、私昨年就任直後に、新庁舎もできる  
わけですので市の校長会を招集して、そして大事なことはこの庁舎の中できちんとお伝えを  
して協力を仰ぐというような体制をつくりまして、今年は非常にそういう意味では安曇野市  
の各学校が市の行政、あるいは教育行政に気持ちを一つにして取り組んでいただけた年かな  
というふうに思います。

また、フッ化物洗口ですね。歯科の条例も制定されたということで、全校がそれに取り組  
んでいなかった実態もございましたけれども、そのところの安曇野市立の学校での取り組み  
はみんなでやってほしいという願いをお伝えして、そして実現をできたということもござい  
ます。そんなことで、ほぼ毎月1回ですけども、市で招集する校長会というのもやってお  
りますので是非、市長さんもお都合がございましたらお話を校長先生方に直接いただくような  
機会も是非あればいいなと、そんなことを思っております。

**市長** また校長会の時期が来たら、前もって秘書広報課と連携してもらえば時間をできるだけ  
とらせていただきたいと思いますので、お願いします。

**教育長** ありがとうございます。

**市長** それと、やっぱり一般の市民の皆さんや保護者の皆さんの権利意識が非常に強くなって  
しまつて学校現場の先生たちがある面では、伸び伸びとした指導ができないような雰囲気  
の一部にはあるんじゃないかなという思いもしています。これは、クレーマーであるとか私の

ところにも直接来たり、いろいろしているのは担任を変えてしまえとか、あるいはこの間も事故があつて親が子どもの面倒をもうちょっと見てもらえばいいなと思うんだけど、体育館、社会体育の中でボールがあつた、それに子どもが乗ってしまつて事故を起こした、ようやく和解をしたということですが、全て行政だとか教育現場だとか担任の先生だとか、そういうところへ責任が問われるような時代になってしまっているのです、安全対策を講じなければ事故が起きればすぐ行政の責任だと、こういうことになってしまつてですね。権利意識が非常に高くなってきて自らの義務というか、そういうものがちょっと端に寄せられてしまつてきているような社会の構造が変化してきているので、先生たちもある面でやりにくいところもたくさんあるのではないかなという思いはしております。だから、一つの例でいえば同じ学校の敷地の中に児童クラブ、児童館があつても放課後になれば外を回つてそっちへ行つてくれと、校庭の中で事故が起きれば学校の責任になってしまうというような話もちよつと聞いたりするんだけどね。俺たちが育つた時代には常識で通つてきたのが今、常識で通らなくなつてしまつてきているというのは時代背景、大変感じる部分は多々あります。だから、先生たちもある面でやりにくいかもしれないね。一生懸命やつて責任を問われるよりも、そつと手を出さないほうが問題は起きないよということになってしまえば、本当の意味でたくましい子どもなんて育たないと思うけれども。

自然保育であつたつて、今信州型自然保育、幼児教育の中で長野県ではやり出して安曇野市も全園がその信州型の自然保育の認定は受けたんだけど、例えば保育園をつくるにしても全く福祉施設のような保育園になっているわけだね。段差はない、バリアフリー、柱へ頭をぶつければこぶができる、これは面を取る、それから冬は暖房、夏は冷房、これでたくましい子どもが本当に育つか。自分の家よりもよっぽど福祉施設に入ったような、転べば擦りむく、血が出る、そういう体験がない。ぶつければこぶができて痛い、そういう体験がない。鉛筆も削らない、ナイフも持たせない、危ない。こういう中で本当にたくましい子どもが育つかどうかというのは、まあ昔の人間だからそういうことかもしれないけれども、何か全く全て無菌状態で危険危険、危ない危ない、けがしないように、大切に大切に温室の中で育てて社会へ出れば、一気に荒れまくる嵐の中に飛び込むような教育になっているんじゃないかな。基本的なところで本当にその幼児教育から始まつて、まあ子どもも少ないということもあるから大切に大切に育てられてもやしっ子になつちゃうんじゃないかな。

だから、そういうことをいうとなかなか時代に逆行する点で反発を食らうし、いろいろ批判も受けると思うんだけどね。学校給食だつて、本当は親が弁当ぐらい持たせればいい

と思っているんだ、俺はね。おかずなんかはこれは差別があっちゃいけない、俺たちの小さいときなんかは、要するにおでえさまと言われた財政の豊かなところの子どもは魚の切り身とか卵焼きとかいろいろ持っていったけれども、俺たちみたいな水呑百姓は真ん中へ梅干しを入れて菜っぱ漬け、大根漬けのような形でおかずを弁当のふたで隠しながら食わなきゃ恥ずかしいような、そんな時代を経験したんだけど、今全て学校でやらなきゃいけない。親が弁当を持たせて、おかずぐらいは統一したものだというのが私はそれができればいいと思うが、今の時代、それができない。そんなことをいうと、時代に逆行するといつて相当な非難轟々受ける時代になっているんだけど、親としては責任を放棄しているんじゃないかなと思うんだ、一方ではね。それで、一方では給食費を滞納して払わないとかね、そんな問題まで出てきてしまう。当たり前だと思うことが当たり前じゃなくなっている。

宮澤委員。

**宮澤委員** 今、市長もそんな話が出たものですから私も常々、市の職員もそうですが、先生、特に地域に何かびくびくして仕事やっているなど、こんな感じを受けます。自分が大切なのか何かちょっとわかりませんが、そんなところが見えまして本当に先生もスポーツも何でもできる先生なのか、一つのものっきりできない先生なのか、そういう方が見受けられます。従いまして、子どもが転校というんですか、移ってくる、そんなようなときにこの学校はこういう指導をできる先生がいないと、こんな話も耳にします。従いまして、人材も豊富ないろいろ経験を持っている先生を今後は交流をしていってもらいたいな、こんなふうに思ったりしております。

それと、スポーツ関係につきましていろいろと施策もあるんですけど、やはり安曇野市の教育委員会としてできるもの、できないもの、そういうものを見極めてそれで近隣の施設を利用する中でやっていかなければ、幾ら計画をしても最後には財政が厳しい、こんなところに結論づいてくるかなと思いますのでそのところを慎重に必要なと思います。

そんなところで、これからはやはり自分の考えを子どもたちに教える、そればかりじゃなくいろいろと保護者の意見を聞く中でこれは正しいもの、これは正しくないものを見極めるような、そんな先生を育ててほしいなと思っています。

以上です。

**市長** それで、スポーツ振興なんか昭和53年に長野国体をやった松本市には広域公園、それからスポーツ施設が整っている面では松本市と連携してあそこまでそんなに遠いところじゃない、何か送迎用のバスを出すとかがあそこをうまく活用すればここで400mトラッ

クつくらなくても、どういう調整をするかということは非常に大切なことだと思うけれども、向こうと調整を図りながら県的な施設を有効に活用するということも、これは生涯学習のほうで考えてもらってもいいことじゃないかなと思うんだけどね。その辺の連携というか、今までそういったことは蓮井課長のところでは体制というか、検討はしてこなかったということだよ。

**生涯学習課長** 県の施設等の利用につきましては、各団体または学校の方々が父兄さん等をお使いになって陸上に特化すると、送っていただきながらという形の活動等をしております。積極的にそういう施設的なものを欠如といいますか、安曇野市にないのはやっぱり陸上の大きな施設だというふうに考えております。これにつきましては、先ほど冒頭に申し上げましたように保護者の方、または先生方と一緒に練習に行っていただくというような形が今まででございまして生涯学習というところで申しますと、そういう例えば陸上に特化したクラブは市の中に駅伝のチームとかかけっこクラブだとかというものがございまして、そこは生涯学習の活動としてはそのような施設を利用したり、大会等に出ていっていただいております。ただ、各学校にあります陸上部または各クラブ等につきましては、今まで練習試合等の場合にはバスを父兄の方々に用意していただいたりする形ではございますが、生涯学習、または学校関係につきましても、特段そこを積極的に今まで利用するような活用につきましてははないというふうに理解しております。

**市長** これからの時代、やっぱり財政も厳しいからあれもこれも全て一自治体でできるという時代じゃないと思う。広域的にできるところは広域的に、ある施設をどういうふうに活用するかということをやっぱり模索をしていく時代じゃないかなと思うんだよ。交通の便が悪ければ、その交通手段をどうしたらいいのかということの中で各自治体がみんな理想の形で建物を建てたって、今度は維持管理から何から後年度負担がかかるっきりだし建てるときはそれでいいけれども、先を考えればお互いに連携し合う広域行政をもっと施設面でも進めていくべきだと思うよ。

それと今、各学校でいろいろ文化祭とか音楽会とかスポーツ、運動会なんかやっているけれども、学校間の対抗、けんかしようということじゃないけれども、お互いに交流をして音楽会なら音楽祭を1カ所でやるとか、それを全部集めるってなかなか難しいかもしれないけれども、複数の学校が連携をし合うというようなことはあまりないわけだね。それぞれの学校の思いでというか、それぞれの学校の用意で単独単独でみんなやるといふふうなことになる。切磋琢磨ということになれば、お互いに発表の機会みたいなのは複数の学校が

連携し合うということも必要じゃないかなということを感じるんだけどね。

**教育長** 部活動なんかはスポーツにしる、文化活動にしる、練習試合だとか大会だとか市内中心、あるいは県内の学校との交流ということはよくありますけれども、かつてやっていたような市内の学校のみんなが集まった音楽会であるとか陸上大会であるとか、そういうことはみんななくなってしまいましたですね。

**市長** それは移動が難しいということなのか、お互いに競争させるということがいけないのか。昔のことばかりいってはいけないけれども、組合立、ここは豊穂中学校の跡地、それから三郷は瑞穂中学校とって南安曇郡の陸上大会が対抗、それを各学校持ち回りでやった時代があったんだけどね。それをやめてしまったという理由は、やっぱり学校運営の中で何かある、支障が来されるのか、あるいは日程的に各学校みんなばらばらだということなのか。その辺は学校教育課長としてはどういうふうに考えているのか。

**学校教育課長** 合併前は、5地域で切磋琢磨していたようなことがあったような気がしますけれども、今合併して同じ地域の17校ということになってその辺の意識が少し薄れてきているのかなというふうには思います。昔は、郡のころは郡の大会だとかそういうのがあったんですけども、今市の大会はありますけれども、それは一つになったということで片づければそれまでですけども、その辺は5地域同じ町村で意識といういものが今と昔は少し変わっているのかなと思います。やはりそういったようなことは必要ではないかなとは思いますが。以上です。

**市長** その辺がなかなか学校運営上、難しいということかね。お互いに交流をすることによってより一体感も生まれるし、いいところを学ぶという面では生きてくるんじゃないかなということを感じるんだけどね。小規模校と大規模校とある、特に明科のほうは明北小学校は人がどんどん減ってきている。学級編制も難しいという時代に、もう少し交流を深めていく必要があるんじゃないかなと思うんだけどね。

**委員長** いいですか。

**市長** どうぞ。

**委員長** ちょっとまた不足していたら教育長にも補足してほしいんですけども、やっぱり一つ、そういうのがなくなったというのは学校運営上のことからいくと、時間がとれなくなってきているということが一つあるんですよ。今まで学校は比較的、教科の学習だけをやればそれでいいという時代がずっと続いてきてその後、やっぱりいろいろなことが学校に持ち込まれてきて、例えばこのところでは情報モラルの教育をやりなさいとか、それから人

権教育をやりなさい、それから今度は主権者教育をやりなさいという形で引き受けるものがどんどん大きくなっていった。そして、そのかわりに土曜日はお休みしましょうというトータルの時間の中で、週30時間なりの中でこなしていくということがだんだんできにくくなってきた、そういうような要素は一つあるんじゃないかと。

もう一つは、やっぱり移動の問題であるとか先ほどおっしゃった事故の問題であるとか、そういうふうなことで広いたくさんの学校が集まるということができにくくなってきたということはあるんじゃないかと思うんですね。

今度、それに対してどうするかということになったときに、ただ学校間の中でやっぱりその地域の安曇野の17校を見ていったときも学校によってかなり状況は違いますので、例えば明科のところは2校の交流をこれからやっぱりいろいろな事情の中で増やして、そして次の中学、高校へという進む道を考えていこうという形でそのそれぞれの学校の状況に応じて今言った連携とか切磋琢磨とか、そういうふうなことを進めていくという、そんな時代になってきているのかなと、そんな感じがするんですけども。

**教育長** やはり唐木委員長言われたように何かを減らしていかなきゃいけないということで、行事の精選というようなことが言われて、そういったときにやっぱり全体で集まるということの効率であるとか、あるいはその練習にかける時間であるとか、そんなことから、やめるのは大変惜しいけれども、やむを得ないなという決断があって、いわゆる郡陸、郡の音楽会等がやめになってきたんじゃないかと思うんですね。

ただ、今年初めて1/2成人式で市内の全小学校の一つの学年が一堂に集まるということは、本当に初めてのケースで、でもやってみると、子どもたちだって同じ世代の学校の子もたちが仲間がこんなにもいたんだというのは、非常に大きな刺激になると思うし、お互いの発表を聞き合うということも非常に意味のあることじゃないかなと思うんですね。そんなことをこれから、一度に全員集まってということは無理かもしれませんが、今委員長言われたように、中学校区単位、まずはそのくらいでしっかり連携を深めて互いが学び合うようなことをして、そしてできれば隣の学区へと少しずつでも広がっていけばいいなと、そんな願いがあります。

**市長** 1/2成人式、今年でもう10周年記念の中でやるということだけで終わってしまうんだけど、ああいうことは初めてなんだけれども、だからそれも送り迎えのバスを用意しなきゃいけないというようなことで結構こっちは財政的な負担はかかるし本当は保護者、父兄と一緒に来てもらえば一番いいんだけど、難しい時代になってはきているね。安全対策を

どう講じるかというのをまず真っ先に頭入れるということなんだね。責任問題がすぐ問われるということだから大変な時代といや、大変な時代だよな。

それで今、ゆとり教育とかいって昔は土曜日も学校行ったり、半日は学校行ったけれども、土日は今学校が休みだよな。こういうゆとり教育というのを土日休みで先生たちは、そんなに仕事が楽になったわけじゃないと思うんだけど、かえって仕事は増えるような気もするんだけど、教育効果というのは上がっているのかね。よくわからないんだけど、それで体力は落ちてきているという話だし。

**教育長** どういう効果かというのは、検証しているところもあるかもしれませんが、感じとして持っているのは、二極化しているといいますか、土日でも本当にスポーツをやっている子どもたちなどは部活にしる社会体育にしる、本当に休みのたび一生懸命それに取り組むものですからむしろ時間がないくらい、もっとやりたいというくらいの人たちもいますし、また逆に何もしないという子も増えているわけですね。ですので、特に安曇野市でも部活動の加入率が低くなってきているとか、あるいは女子の体力が落ちてきている、その辺のところが積極的にやる層とやらない層というのがどうも分かれてきているような気がいたします。

**市長** それで、古幡課長はシニアの監督なんかをやって子どもたちを育ててもらっているんだけど、リトルとかシニアの野球をやっている子どもたち、あるいはサッカーやっている子どもたち、比較的男性はそういうところへ行くんだけど、女子の皆さんの運動というのはあまりないんだよな。ないというか、参加しないというか、キッズダンスみたいなのはやっではいるようだけれども、ああいうところの子どもはよく呼ばれて行くんだけど、本当に礼儀正しいし精神的にも強いものを持っている。それから、人間関係もすばらしいものを持っているんだけど、やはりスポーツなんかを通じてもっと人間的なものを育てるということ、促進をしていく必要があるんじゃないかな。

男性の皆さんというのは、確かにあちこちスポーツなんか出ているんだけど、なかなか女の子たちの活動というのはあまり見たことがないんだよな。ただ、年をとって定年になって家へ入っていろいろ活動をやっているのは、女性が多いので男性はほとんど出ていかない。いろいろなグループ活動をやっているのは、女性のほうが多いということなもので高齢者と若者と逆転しているような感じがしないでもない。今、ゲートボールは廃れたけれども、マレットゴルフがはやっている。これは男性が比較的多くて女性が少ない。ただ、いろいろな文化活動、サークル活動、芸術文化活動をやっているのは女性のグループが多いということだよな。どういうふうに捉えればいいのか。だから、やっぱり健康長寿のまちづくりの基



本というのは体力的に丈夫じゃないと健康長寿のまちづくりもできないので、スポーツ振興というのは非常に大事な教育分野の一つだと思うんだけど、これは福祉のほうとも関係してくる、医療費の抑制なんかにもつながっていると思うんだけどね。

一方的に素人がいろいろ言ってもいけないけれども、思いついたことを述べさせてもらいました。他の委員の皆さん、いろいろな意見を出してもらってこれからの教育のあるべき姿をお互いに模索をしていただければいいと思いますが、ご意見ございますか。

(発言する者なし)

**市長** よろしいですかね。今日、第2回目ということでもありますのでお互いの意見交換というふうなことで、それでは意見交換をここで終わらせていただきたいと思いますが、いろいろ意見を出させていただきました。この教育大綱の策定について、事務局案によって今後進めていくと、策定していくということよろしいですか。

(「はい」の声あり)

**市長** それでは、事務局のほうでもこれらを参考にしてどういうふうに具体的に成果としてあらわしていくのか、何が実行できるのか、しっかり新年度に向けて検討をしていただきたいと思います。それで、予算要求の時期になってきますが、先ほども言いました先例踏襲ということだけでなくして見直せるものはしっかり見直してある面では費用対効果、この辺も見極めた中で予算要求をしていただきたいと思います。

以上で、本日の提案の教育大綱についてお認めをいただきました。

---

#### ◎その他

**市長** その他の教育施設等全般について、今までもいろいろと意見を出し合ったんですが、ご提言等ございましたら、ご発言のお願いをいたします。

宮澤委員。

**宮澤委員** その他のほうでちょっと将来を見渡す限り、市の人口も伸びないというようなことが最近報道されておりますけれども、30年でしたか、2割だか3割くらい人口が減っているというような広報がこの間載ってございましたけれども、それに比例しましてやっぱり小中学校の生徒もそれなりに減ってくる、こんな現象かと思います。従いまして、合併10年経って当時の町村間の地域の通学関係が大分横を向くと近い学校も出てまいりました。そういうために、通学区域及び将来の小学校等々の統廃合、そんな論議も踏まえてこれから検討する

時期に入ってくるんじゃないかなと思います。

先ほども、市長のほうから中学校と高校との連携はというような話もございましたが、よくうちの委員長のほうからもゼロ歳から18歳までの関係も将来に検討しなきゃいけないよなと、こんな話も出ております。ぼつぼつそんな見直しする時期も来るのかなと思いますので、これを契機に何らかの形で検討もする必要があると思います。そんなことをちょっと意見として述べておきたいと思いますが、よろしくお願いします。

**市長** 少子化の時代ということで、このままいけば2040年には安曇野市の人口も7万8,000人、約2万人減るという試算であります。それでいろいろ、まち・ひと・しごと創生の中で当面は5年間の計画を立てて2040年に8万3,000人の人口は少なくとも維持していきたいという、こういう計画であります。いずれにしても、個人の自由というのは難しさがありますが、結婚をしていただいて子どもを産んでいただかなければ人口は増えないわけですが、今個人情報であるとかプライバシーの問題であるとか、なかなか難しいものがあって昔のように周辺の皆さんが適齢期の皆さんに心配をしていただけるという時代でなくなったというところに大きな壁を感じています。

ある面では、適度なおせっかいでお互いに地域で市でも一生懸命男女の出会い、教育委員会でやるというわけにいかないの社会福祉協議会や商工会の青年部に頼んでいろいろな事業を行ってきました。社会福祉協議会にもお願いをしてきたんですが、実効性が上がらないということで今、安曇野市の商工会の青年部にお願いして男女の出会いの場をつくっていただいております。県もいろいろな出会いの場づくりということで取り組んでいるので県とも連携をしながら、とにかく結婚をしていただいて子どもを育ててもらおう、産んでもらおう、そして子育てしやすい条件を行政としてどこまでできるか、とにかく子育てしやすい条件づくりに今できる限り取り組んでいるところです。

今年から第3子は18歳まで3人いれば、第3子の保育料を無料にしたり、家で第2子以上の皆さんを育ててもらえば1人について3,000円、これは恐らく安曇野市だけだと思います。ミルク代ということで補助するような制度もつくりました。県は3子について3,000円出すというんだけど、それで6,000円の上乗せというふうに3,000円なので6,000円というふうなことになりますけれども、いろいろな制度づくりをしています。それで、信州型自然保育だけでなくして幼児教育の中では、もっと安曇野としての付加価値をそれにどうつけるかということの中でやはり安曇野を住みたい安曇野、選んでもらえる安曇野にしていかなければいけないなというふうに思っています。

それには、やはり雇用の場の確保、産業振興を図って働く場を確保しなければ生活面を考えた場合、定着できないということもありますので産業振興も含めて条件づくりについては取り組んでいるところであります。それぞれの地域においてもある面では適度なおせっかいということで取り組んでいろいろなグループ活動なんかやっていますけれども、そんな雰囲気づくりができればいいなということを感じています。

他に何かございますか。

(発言する者なし)

**市長** よろしいですかね。

それでは、本日の議事につきましては、以上で終わらせていただきたいと思います。それぞれ、総合教育会議での協議事項は終わらせていただきます。貴重な意見をいただきましたが、また事務局のほうでしっかり咀嚼をしていただいて、今後の行政執行の面で生かしていただきたいと思います。

事務局のほうから他に何かございますか。

**教育部長** 特にございません。

**市長** では、長時間にわたりましたけれども、本日の第2回の総合教育会議、終了をさせていただきます。

大変長時間にわたりありがとうございました。今後ともお世話になります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

---

◎閉 会

**教育部長** どうもお疲れさまでした。本日の会議事項は全て終了いたしましたので、ここで閉会とさせていただきます。

どうもお疲れさまでございました。ありがとうございました。